

オピニオン

ICD-11（国際疾病分類第11版）について

山内 一信*

ICD (International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems：疾病及び関連保健問題の国際統計分類) とは、国際的な見地から、疾病分類別統計や死因統計を体系的に記録、分析、解釈及び比較を行うため WHO が定めた疾病分類表である。ICD の第1版(ICD-1) は1900年(明治33)の第1回国際会議において採択され、その後、およそ10年ごとに改訂され、現在使われているのは1990年に採択されたICD-10(国際疾病分類第10版)である。この後 WHO は、保健分類「ファミリー」の概念を提唱し、様々な健康面や保健医療システムに関する情報を提供するための中心分類として生活機能や健康状態等に関する分類「国際生活機能分類 (International Classification of Functioning, Disability and Health：ICF)」(2001年 WHO 総会採択)、および2007年から開発が進んでいる「医療行為の国際分類 (International Classification of Health Intervention：ICHI)」を発表した。

ICD-10 は30年間にわたって主だった改訂はなかったが、2019年になり、ようやくICD-11がWHO 世界保健総会において採択され、2022年にICD-11が発効することになった¹⁾。本稿では、ICD-10 と ICD-11 を比較しつつ、その特徴を紹介する。

ICD-11 は2007年より、疾病分類に係る IT

の専門研究者や各国の関係者が議論を行い、その基本骨格を決め、ICD-10 から以下のような変更を加えた。主な特徴は、①大分類(基本体系)項目の改変、②ICD-10、ICF、ICHI など従来から使われてきた病名集や生活機能分類などへの配慮、③オントロジーの採用、④オンライン化、⑤生活機能評価、伝統医学を加えたことなどである²⁾。

①についてはICD-10の22章からなる分類を組み直し、第4章 免疫機構の障害、第7章 睡眠・覚醒障害、第17章 性保健健康関連の病態、第26章 補助チャプター伝統医学の病態・モジュールを加えた(表1)。新しい知見の導入によって、14,609(2013年)から17,528項目に分類項目数も増え、分類の詳細化がはかられた。②については新たな大分類を加えたが、ICD-10の基本骨格で利用できる分類は踏襲した。③については、単に疾病分類のみならず、オントロジーの概念に従い、疾病名を多角的説明、つまり疾病概念の定義、症状、検査、治療、予後、さらに解剖学的、病理学的分類によって示した。因みにオントロジーとは存在論であり、対象世界をどのように捉えた(概念化した)かを記述するという意味で使われている³⁾。

例えば糖尿病という概念を症状、検査、治療、予後で表わすことによって、その概念を正確に伝達することができ、知識の共有化につながる。④についてはICD-10までは誌上で疾病分類検索を行っていたが、ICD-11ではIT化の時代に対応して、オンライン環境で閲覧できると同時にコード化もできるようにした。⑤については介護関係の重要性が注目されている現在、第V章 生活機能

* Kazunobu Yamauchi：東員病院・認知症疾患医療センター

表 1 ICD-11 死亡・疾病統計用分類の構成

章	1 桁目のコード	大分類項目	章	1 桁目のコード	大分類項目
第 1 章	1	感染症および寄生虫症	第 15 章	F	筋骨格系又は結合疾患の疾患
第 2 章	2	新生物	第 16 章	G	腎尿路生殖系の疾患
第 3 章	3	血液及び造血器の疾患	第 17 章	H	性保健健康関連の病態
第 4 章	4	免疫機構の障害	第 18 章	J	妊娠分娩及び産褥
第 5 章	5	内分泌栄養及び代謝疾患	第 19 章	K	周産期に発生した病態
第 6 章	6	精神および行動の障害	第 20 章	L	発達異常
第 7 章	7	睡眠・覚醒障害	第 21 章	M	症状兆候及び以上臨床所見異常検査所見でたに分類されないもの
第 8 章	8	神経系の疾患	第 22 章	N	傷病、中毒又はその他の外因の影響
第 9 章	9	視覚系の疾患	第 23 章	P	傷病又は死亡の死因
第 10 章	A	耳又は乳様突起の疾患	第 24 章	Q	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用
第 11 章	B	循環器系の疾患	第 25 章	R	特殊目的用コード
第 12 章	C	呼吸器系の疾患	第 26 章	S	補助チャプター伝統医学の病態・モジュール
第 13 章	D	消化器系の疾患	第 V 章	V	生活機能評価に関する補助セクション
第 14 章	E	皮膚の疾患	第 X 章	X	エクステンションコード

ICD-10 は 22 章であったが、ICD-11 では 26 章に増え、生活機能評価(第 V 章)とエクステンションコード(第 X 章)の章が追加された。新設された章は赤字で示した。章を示す 1 桁目のコードは ICD-10 ではアルファベットであったが、ICD-11 では数字とアルファベットの両者を使用することになった。

(文献 2 より引用)

評価に関する補助セクションを加え、第 26 章に伝統医学を加えたことなどである(表 1)²⁾。

ICD は疾病分類とともにコーディングツールでもある。コードするとは世界各国で異なった呼び名の疾病名を国際的に決められたコードに一意に集約することであり、このコードをもとに国際的な疾病統計が可能となる。また本邦では、診療録の管理や DPC-PDPS (Diagnosis Procedure Combination/Per-Diem Payment System: 診断群分類別包括支払い制度)にも使われており、コーディングは極めて重要である。

ICD-11 の WEB サイトには固定版、日々更新版などの入口がある¹⁾。固定版にはブラウザとコーディングツールが設置されており、インターネット上で疾病分類確認とコーディングが可能である。紙数の都合上、詳細には述べないが、一部、コーディングの基本的なところを述べる(表

2)⁴⁾。実際のコーディングの方法は、stem コード(単独で使用できる独立した疾病概念)を pre-coordinated と post-coordinated という形でコード化する。

例えば「2 型糖尿病」は 5A11 という pre-coordinated コードがつく。これに網膜症が強く出現していれば 9B71.0Z (糖尿病性網膜症)が post-coordinated としてコード化される。従って、2 型糖尿病 / 糖尿病性網膜症は 5A11 / 9B71.0Z とコード化される。Stem コードをより詳細にコードする必要がある場合には X 章のエクステンションコードで付加的に情報を後づけする。糖尿病性網膜症の多様な疾患概念を、より詳細に示す場合は extension コードをつけて表わすことができる。網膜症が両側 XK9J で中等度 XS0T ならば糖尿病性網膜症、両側、中等度は 9B71.0Z & XK9J & XS0T となる。最終的に、2 型糖尿病、両側、中

表2 2型糖尿病についてのICD-11のコード例

疾病名	ICD-11 コード	ICD-10 コード
2型糖尿病	5A11	E11
2型糖尿病・糖尿病性網膜症	5A11/9B71.0Z	E11.3 † H36.0*
2型糖尿病・糖尿病性腎症	5A11/GB61.1	E11.2 † N08.3*
2型糖尿病・多発神経炎	5A11/8C03.0	E11.4 † G63.2*
疾病名	クラスターコーディング	
2型糖尿病・糖尿病性網膜症・両側・中等度	5A11/9B71.0Z & XK9J & XS0T 両側 中等度	
疾病名	ポストコーディング	
2型糖尿病, 糖尿病性網膜症, 腎症, 多発神経炎	5A11/9B71.0Z/GB61.1/8C03.0	
糖尿病性網膜症・両側・中等度・2型糖尿病	9B71.0Z & XK9J & XS0T/5A11	

ICD-11では、2型糖尿病(5A11)と糖尿病性網膜症(9B71.0Z)は/で結ばれ、5A11/9B71.0Zとひとつにまとめられている。ICD-10ではE11.3 †とH36.0*のダブルコーディングとなる(†は基礎疾患に、発現する病態には*が付く)。2型糖尿病と糖尿病性網膜症(5A11/9B71.0Z)の状態をより詳細(両側(XK9J), 中等度(XS0T))に示す場合には5A11/9B71.0Z & XK9J & XS0Tとextensionコードを後付けしてまとめられる。下から2行目には4つのstemコードがまとめられた状態の例を示す。

(文献4より引用)

等度の糖尿病性網膜症のコードは5A11/9B71.0Z & XK9J & XS0Tとなる。この一連のコードをクラスターコーディングと呼ぶ。

ICD-11は2022年1月に5年間の猶予期間を経て正式に発効することになっている。この間の議論を経てさらに洗練化されるものと思われる。各病院で取り扱った患者の疾患は、正確にコーディングされれば、厚生労働省を通じてWHOに報告され、正確な国際的な疾病統計として反映される。ICD-11の正式な日本語版は現段階としてはできていない。

当面は英語版でアクセスし、コードすることになる。最初はとっつきにくいICD-11であるが、使ってみるとよくできたシステムである。DPCに備える意味でも、今後、各医療機関は診療録の病名を正確にICD-11に即してコーディングすることが望まれる。

利益相反

本論文に関して、筆者に開示すべき利益相反はない。

文献

- 1) WHO: ICD-11. <https://icd.who.int/en> 2021年12月3日閲覧
- 2) 日本医学会: ICD-11 概要について. https://jams.med.or.jp/glossary_committee/doc/2019material_s2.pdf 2021年12月3日閲覧
- 3) Realize-Web サイト - 株式会社: 用語解説(オントロジー). <https://www.realize-corp.jp/glossary/ontology> 2021年12月1日閲覧
- 4) 河村保孝: ICD-11の概要. 第47回日本診療情報管理学会学術大会抄録集 2021: 104-105